



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ランチ札幌月寒 F棟	階数	2
建設地	札幌市豊平区月寒東3条11丁目21-5の内	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	0 人
建物用途	集会所	年間使用時間	3,130 時間/年(想定値)
竣工年	2019年5月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,316 m ²	評価の実施日	2018年10月15日
建築面積	1,265 m ²	作成者	
延床面積	2,326 m ²	確認日	2018年10月15日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.5 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項			
総合	植栽を多くすることで、森の中の商業施設をコンセプトとする。	A 省エネルギー	建築物省エネルギー法の基準を満たす計画とする。LED照明を使用する。
B 省資源等	再利用可能廃棄物保管所を設け、分別をおこなう。	C 緑化	緑化率30% (札幌市基準) を確保する。
		D 雪処理	降雪時は適切に排雪をおこなう。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)ランチ札幌月寒 F棟

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 省エネ								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備 省エネ 窓を設ける								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 省エネ								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能				0.30	-	-	2.3
1 機能性				1.4	0.40	-	1.4
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画			1.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)				-	-	
2	リフレッシュスペース				-	-	
3	内装計画			1.0	1.00	-	
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計			2.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		1.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	耐久性があるものを使用	4.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	
2.4 信頼性				1.4	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	
3	電気設備			1.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			1.0	0.20	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり				-			
2 空間の形状・自由さ		ラーメン構造を採用(体力壁無し)	4.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	断熱サッシを使用	4.6	0.20	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用	省エネ	窓を設ける	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.86	2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上材は接着剤を極力使用しない	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1	消火剤	省資源	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	3.0	0.50	-	-		
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7	
1 地球温暖化への配慮		省資源	省エネの設備機器を使用		3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6	
2.1 大気汚染防止		省資源	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄処理	2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	省資源	雨水抑制施設を設ける		4.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		十分な広さの駐車場を確保		5.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理	2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			2.2	0.33	-	-	2.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		1.0	1.00	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		-	-	-	-		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ランチ札幌月寒 F棟	BEE	0.5	BEEランク	B ⁻
建物用途	集会所				
延床面積	2,325.6 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球 温暖化 対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	レーダーチャート ★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 21.3 最低点 6)		合計 13.0点 /21.3点	
Q1 温熱環境	スコア 0.7 /1.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.7 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 0.0 /0.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 5.4 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.0 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計 13.3点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.0 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.4 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.1 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 6.4点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数